

研究部会報告



● OR/MS とシステム・マネジメント ●

● 第20回

日時：1月7日(土)場所：東工大(長津田キャンパス)

出席者：25名

議題：科学から空想へ—Organization not as an objective reality but as a socially constructed reality

報告者：遠田雄志(法政大学)

この題はエンゲルスが「空想から科学へ」を発表し100年たち、現在は反対の「科学から空想へ」の時代ではないかという報告者の「Management Science(MS)」に対する問題提起として示された。具体的には従来MSの多くが前提としている合理的意思決定と現実の意思決定の乖離が論じられ、現実に即した意思決定モデルの考え方が提示された。さらに経営管理と情報との関係が演劇のメタファーを用いて示された。この報告は問題提起的であり、論議はうんだが部会メンバーの視野を広げるのに大変有意義であった。

● 第21回

日時：2月4日(土)場所：東工大(長津田キャンパス)

出席者：30名

議題：いかにして客観的理論は可能であろうか

報告者：平野雅章(早稲田大学)

「経営科学」の実施問題について、歴史的視野から見なおしてみると、「科学革命」の社会的認知とアナロジーできるのではないかと、という考えから「科学哲学」の流れが紹介された。ベーコン、マッハ、エイヤ、ポッパー、……、クーン、ファイヤーセントウの考え方が簡潔にまとめられて報告された。この「科学革命」の社会的認知のレビューから得られた教訓は、「科学革命」の普及には、「データ」による検証だけでは社会的認知が得られにくいこと、信じる人を多くもつ必要があることなどであった。これらの教訓はMSの実施問題を考えるさいには大切な視点であろう。

● 第22回

日時：3月3日(土)場所：東工大(長津田キャンパス)

出席者：28名

議題：今年度のまとめと今後の研究方向

報告者：太田敏澄(豊橋技科大)、山田善靖(産業能率大)

昨年度の文献研究を基礎として、58年度は組織の情報技術(OR/MS, 情報システムを含む)と経営システム・マネジメントとの関係について広い視点から研究を進めた。そのため研究部会でとりあげたテーマはシステム思考, 認知心理学, OA, 組織科学, 科学論, と広範囲になった。59年度は前年度の研究をふまえてOR実施とマネジメント・システムの関係の研究を深める方向に進めることの必要性が論じられ、合意された。

● 現場のOR教育 ●

● 第11回

日時：3月22日(木) 15:00~17:00

場所：三菱重工・名古屋航空機製作所(大江工場)

内容：線形計画法と待ち行列に関する教材案の紹介。パソコンを使って、回帰分析(対話型, 変数選択型)のデモを行ない、使い方などについて討議を行なった。

● 第12回

日時：4月6日(金) 13:00~15:00

場所：富士通OAショールーム

内容：パソコンを使って線形計画法, 待ち行列に関する教材のデモを行ない, 内容, 使い方について討議を行なった。

● 第13回

日時：4月22日(日)15:00~17:00 場所：中部電力

内容：現場長を対象にしたOR入門, 在庫問題の解決に関するスライドを上映し, それらが, われわれの教材に生かせるか検討した。

● 信頼性・保水性 ●

● 第11回

日時：3月24日(土) 14:30~17:00 東京工業大学

題目：2標本問題の加速寿命試験への応用

報告者：宮村鐵夫(茨城大学)

1979年から1983年の間の一連の加速寿命試験に関する文献が, いくつかの観点から分類整理して報告された。その中で特に, 2標本問題における検定統計量を加速パラメータの推定に応用する考え方や, ステップ型ストレスを与えたときの逆べき法則における新たな加速モデルなどを中心にして説明がなされた。

● 第12回

日時：5月12日(土) 14:30~17:30 (東工大)

題目：市場での使われ方を考慮した信頼性設計と保証

について

報告者：中村正夫(小松製作所)

エンジンの信頼性設計・保証のための総合的システムの中で、search systemによるクレーム情報ならびに市場追跡車情報の処理プロセスを中心に説明がなされた。特に、「市場での使われ方」による情報から層別して設計改善に展開していく過程が、多くの例をまじえながら報告された。

●政策科学●

●第2回

日時：4月21日(土)14:00~17:00 場所：三菱総合研究所 出席者：11名

テーマ：最近の米国事情 講師：福島康人(防衛研修所)

9カ月間の米国出張を終え、最近の米国の生の姿を身近なものとして感じてきた印象をまじえ、レーガン大統領の人気はどこからきているかを、その個人的魅力、運の強さ、政策、政治的力量的側面から分析し、きたるべき選挙にむかっの課題を考えた。このほか、アメリカ人の対ソ観、および、対日観について考察した。

●第3回

日時：5月19日(土)14:00~17:00 場所：三菱総合研究所 出席者：10名

テーマ：核戦争とその気象におよぼす壊滅的打撃——政策的意味あいについて—— 講師：斉藤 昂(防衛庁)

米ソ超大国の関係が冷えはじめている昨今では、各種アンケート調査の結果にも、核戦争の可能性が増大してきていると答える有識者が増えている。これを受けて、もし核戦争がおきたら、気象に対して、地球的規模で、どのような影響を与えるかのシミュレーション結果をForeign Affair誌(Winter 1983/84)の記事から紹介した。

●意思決定のための会計情報●

●第9回

日時：5月8日(火) 17:00~19:00

場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：6名

内容：(1) 春季研究発表会での中間報告について
(2) 第2年度のすすめ方について

●未来分析研究部会●

日時：5月26日(土) 14:00~17:00

場所：東京都勤労福祉会館 出席者：15名

議題：時系列経済分析の意義と限界

報告者：高森 寛(青山学院大学)

時系列経済分析にはいろいろな手法があるが、それらについて利害得失を整理分析したあと、討論が加えられきわめてみり多いものであった。討論の中で、時系列分析モデルにおける「ケチの原理」はきわめて重要な意義をもち、今後の実務上示唆に富むものであることが確認されたのは何よりの収穫であったと思う。

●DP(研究グループ)●

日時：5月8日(火)18:00~20:00 場所：日科技連

出席者：鍋島一郎、蔵野正美、安田正実、丸山茂子、小田中敏男

議題：文献紹介：Finding an Optimal Sequence
by Dynamic Programming

報告者：丸山茂子

仕事間に先行制約がある場合への拡張をとり扱っている。仕事および仕事の部分集合 J にラベルを与え、 J に対する関数値 $G(J)$ をストアする番地が、そのラベルによって決まる。先行制約がつくと、対象とする部分集合の数が減ってくるが、コンパクトにストアされるようにラベル化を考える。

「事例研究」の原稿募集

ORの特徴は実践にあるといわれています。実際の応用をぬぎにした理論ということはORでは考えられません。

「この問題はこう処理したが、もっとよい方法はないか」、「やってみたけどなかなかうまくいかない」というような事例や問題提起

をどしどしご寄稿くださるようお願いします。

原稿の長さ：学会原稿用紙36枚(25字×12行)以内(図・表のスペースを含む)

申し込み：学会事務局へ原稿用紙をお申し込みください。

(OR誌編集委員会)

会合記録

()内は出席者人数

視察団派遣準備委員会	5月7日(月)(5)
モニター委員会	5月8日(火)(3)
三学会協議会	5月9日(水)(10)
編集委員会(OR誌)	5月9日(水)(8)
支部長会議	5月15日(火)(13)
モニター会議	5月17日(木)(11)
OA化委員会	5月24日(木)(17)
理事会	5月25日(金)(18)

昭和59年度第1回理事会議 (59.5.25)

- 理事自己紹介
- 会長挨拶
- 庶務関係
 - 前回理事会議事録承認の件
 - 評議員会議事録の件
 - 通常総会議事録の件
 - 入退会の件
 - 昭和59年度各委員会委員・幹事推薦の件
 - 表彰委員会委員長指名の件
- 研究普及関係

- 春季研究発表会の報告
- モニター会議開催報告
- シンポジウムの開催予定の件
- IFORS 視察団参加者募集の協力依頼
- 国際関係報告
- 公的問題関係
 - 学術会議の動向と対応の件
 - 経営工学関連学会協議会の件(会則審議並びに代表選出)
- 支部総会報告書の件(中部・関西・九州)
- その他

坂野 匡弘	産業能率大学
志田 嘉孝	日本電気㈱
白石 典義	国際大学
鈴木 幸一	㈱日立製作所日立茨城工業専門学院
田中 征夫	川崎製鉄㈱
田中 正夫	神戸大学
田村 吉弘	日本ナレッジインダストリ㈱
高取 誠二	川崎製鉄㈱
棚橋 啓世	インターナショナルクリエティブコンサルタンツ(有)
動道 千歳	大阪工業大学
中村 隆志	小樽商科大学
西村 康一	亜細亜大学
平井 信恒	川崎製鉄㈱
平尾 信正	東京ガス㈱
不動 昭	広島県庁
三ツ間 均	東京電力㈱
水谷 文俊	清水建設㈱
緑川 猛	共和コンクリート工業㈱
峯崎 一男	丸栄計算センター㈱
吉岡 茂	東京都総務局
吉田 孝	川崎製鉄㈱

入退会

(59.3.29~5.25)

●入会(正会員)

荒川 淳	共和コンクリート工業㈱
小野 喜芳	㈱電力計算センター
加賀屋誠一	北海道大学
株木 衛	京都産業大学
上村 邦夫	日本電信電話公社
川田 孝司	エッソ石油㈱
熊澤 吉起	滋賀大学
小島 工	中小企業事業団

動道 千歳	大阪工業大学
中村 隆志	小樽商科大学
西村 康一	亜細亜大学
平井 信恒	川崎製鉄㈱
平尾 信正	東京ガス㈱
不動 昭	広島県庁
三ツ間 均	東京電力㈱
水谷 文俊	清水建設㈱
緑川 猛	共和コンクリート工業㈱
峯崎 一男	丸栄計算センター㈱
吉岡 茂	東京都総務局
吉田 孝	川崎製鉄㈱

編集後記▶3月号、6月号と2回にわたってOR教育の実態、OR教育への期待などを特集で組んでみました。ORの普及、活性化のためにはまだまだこの企画を継続していかなければなりません。さっそく「企業のOR活動」、「OR研究室訪問」をニュースのようなかたちで今後連載することになりました。編集委員会より紹介の依頼がありました節はどうかよろしくご協力ください。また、ぜひ紹介したいというご希望がございましたら、自・他、

かまいません。ご一報のほどを。▶12月号の特集はp.414にありますように「暮しのOR」を企画しています。400字原稿用紙でわずか7.5枚(5月号、6月号の2.5枚は間違いでした。おわびいたします。)です。身近なところにもORの課題はあんがいあるものです。またある場面では、OR的にとり扱ってみたがまったく効果がなかった、などの事例もあるでしょう。どうか気軽にどしどしご寄稿くださることを期待いたします。(J)

オペレーションズ・リサーチ

昭和59年7月号 第29巻(新シリーズ第9巻) 7号 通巻283号
 代表者 横山 勝義
 発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
 (電話 03-815-3351~2) 〒113
 編集人 牧野 都治
 発売所 株式会社 日科技連出版社
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含)年間予約購読料 9600円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(563-2241)へ